1　研究構想

研究主題

根気強く、人間としてよりよく生きるための道徳性の育成

～　考え、議論する道徳授業の実践　～

⑴　研究動機

道徳教育の目標は、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことにある。変化の激しい社会の中で、多様な価値観の存在を認識しつつ他者と協働しながら生きていくためには「考え、議論する道徳授業」において、その資質を育むことが重要である。

本校には、人間関係や環境の変化に柔軟に対応することが苦手で、学校を休みがちな生徒が比較的多い現状がある。生徒全体の意識をみても、困難を乗り越え、あきらめずに挑戦しようとする意欲に課題があることがわかった。このような背景から、本校の目指す生徒像に「粘り強く逞しい生徒」がある。

また、これまで本校では夏季校内研修に道徳研修を組み入れ、２学期の全校一斉授業で研修成果を発表する取り組みを継続してきた。教職員間の互見授業を取り入れながら「考え、議論する道徳授業」の実践に取り組んでいる。これらの取り組みと関連付け、本校生徒が逞しく、人間としてよりよく生きるための道徳性を養える授業を実践するものとして、本研究を推進することとした。

⑵　研究仮説と主な手立て

①効果的な発問を工夫すれば、議論に発展させることができるだろう

手立て：自己との対話を促す発問（自分ごととして考えたくなるような発問）、他者との対話を促す発問（他者と考えたくなるような発問）、多面的・多角的に考えられる発問、生き方を考えられる発問　を吟味し、授業のねらいと生徒の実態に即し、授業において効果的に投げかける。問い返しや、切り返しも考慮して発問を構成する。

②考えを視覚化するツールを工夫すれば、多様な意見を引き出し、考えを広げ深めることができるだろう

手立て：心情円、ネームプレート、ホワイトボード、パワーポイント、発表ノート、Sli.do　等の思考ツールを活用して授業を組み立てる。

③資料の提示や授業形態を工夫すれば、見通しをもって粘り強く取り組むことができるだろう

手立て：場面絵、写真資料、動画視聴、役割演技、ティームティーチング、話し合い形態の工夫をすることで、道徳資料の内容理解を深め、自分ごととして考えられるようにする。

⑶　主な研究手順

令和２年度

①　教師の授業力向上を目的とした「道徳模擬授業研修」の実施

②　研修の学びを生かした授業づくり

③　全校一斉道徳授業での実践

令和３年度

①　アンケート調査による生徒の実態把握（年３回）

②　本校の道徳的課題に基づいた授業づくり

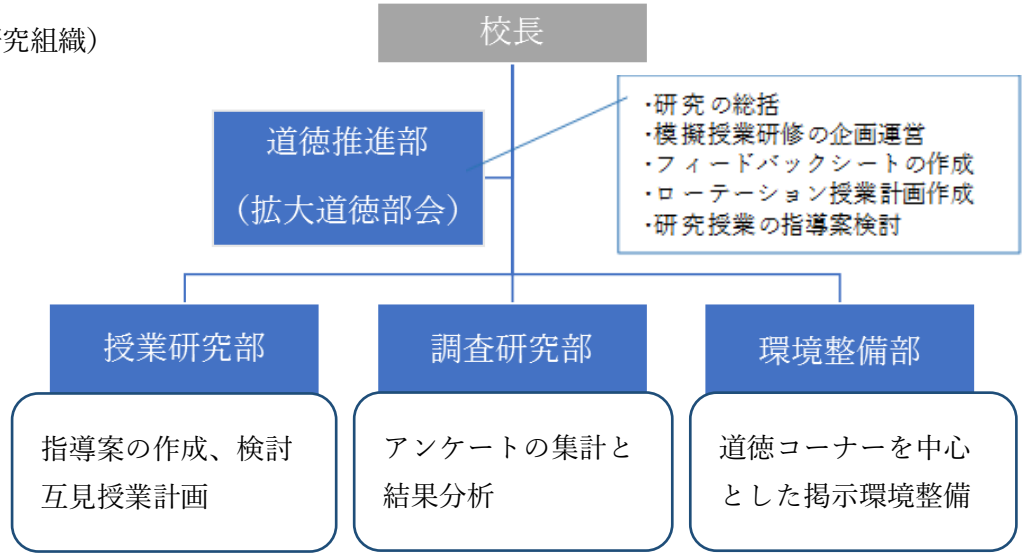
③　仮説に基づいた授業実践（全校一斉道徳授業含む）

④　互見授業による研修と授業改善

⑤　研究成果の検証、成果と課題の分析

⑥　研究発表授業

（研究組織）

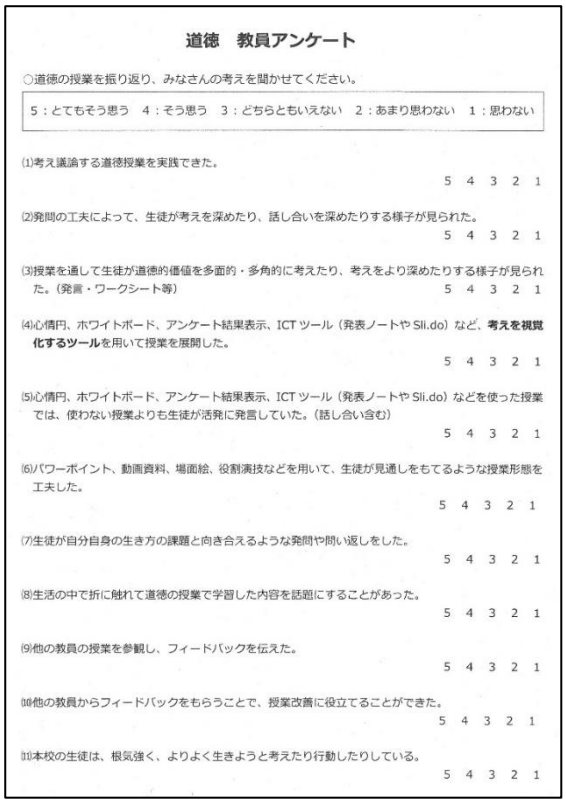


⑷　研究成果の検証方法

①生徒アンケートにより、
道徳的価値項目に対する実践意欲の高まりを測る。

②生徒アンケートにより、
研究仮説に対する手立てが有効であったかを測る。

③教師アンケートにより、
研究仮説に対する手立てが有効であったかを測る。



道徳　教員アンケート

○道徳の授業を振り返り、みなさんの考えを聞かせてください。

５：とてもそう思う　４：そう思う　３：どちらともいえない　２：あまり思わない　１：思わない

⑴考え議論する道徳授業を実践できた。　５　４　３　２　１

⑵発問の工夫によって、生徒が考えを深めたり、話し合いを深めたりする様子が見られた。　５　４　３　２　１

⑶授業を通して生徒が道徳的価値を多面的・多角的に考えたり、考えをより深めたりする様子が見られた。（発言・ワークシート等）　５　４　３　２　１

⑷心情円、ホワイトボード、アンケート結果表示、ICT ツール（発表ノートや Sli.do）など、**考えを視覚化するツール**を用いて授業を展開した。　５　４　３　２　１

⑸心情円、ホワイトボード、アンケート結果表示、ICT ツール（発表ノートや Sli.do）などを使った授業では、使わない授業よりも生徒が活発に発言していた。（話し合い含む）　５　４　３　２　１

⑹パワーポイント、動画資料、場面絵、役割演技などを用いて、生徒が見通しをもてるような授業形態を工夫した。　５　４　３　２　１

⑺生徒が自分自身の生き方の課題と向き合えるような発問や問い返しをした。　５　４　３　２　１

⑻生活の中で折に触れて道徳の授業で学習した内容を話題にすることがあった。　５　４　３　２　１

⑼他の教員の授業を参観し、フィードバックを伝えた。　５　４　３　２　１

⑽他の教員からフィードバックをもらうことで、授業改善に役立てることができた。　５　４　３　２　１

⑾本校の生徒は、根気強く、よりよく生きようと考えたり行動したりしている。　５　４　３　２　１

2　研究経緯

令和２年度

４月６日（月）　校内研修　「特別の教科　道徳」研修会
・研究方針の確認
・本校の道徳授業についての共通理解

６月１９日（金）　道徳オリエンテーション（各教室）
以後、毎週金曜日　第４校時　ローテーションによる道徳授業を実施

８月２４日（月）　校内研修　道徳模擬授業研修～考え、議論する道徳授業実践のために～
講師　西部教育事務所　指導主事
テーマ「『考え・議論する道徳』を実現するための教員の授業力向上・スキルアップを図るための手立て」
教諭数名の模擬授業に対し、講師から全体へ指導・助言をいただいた。
・導入の工夫　・授業の組み立て方　・教具の扱い
・発問の工夫　・まとめの工夫

１０月２７日（火）　学校指導訪問（狭山市教育委員会・西部教育事務所）
主題　「規則の意義とは」
内容項目［Ｃ（１０）　遵法精神、公徳心］
教材　「二通の手紙」（出典：新しい道徳３　東京書籍）
授業者　教諭
指導者　狭山市教育委員会　指導主事
講師から指導・助言をいただいた。
・教師による切り返し
・議論し、考えを深めるための話し合いの工夫

１２月１２日（土）　全校一斉道徳授業　（研修内容を反映させた授業実践）
１年　「いのちってなんだろう」
２年　「心でいただく伝統の味」
３年　「わずか２分の遅れで卒業フイ」

令和３年度

４月　５日（月）　校内研修　研究方針の共有
４月～　第１回　道徳内容項目アンケート実施（生徒）
１学期　授業実践
６月～　「いじめのない世界へ」をテーマにした授業、いじめゼロ宣言（各学年）

７月～　第２回　道徳内容項目アンケート実施（生徒）
生徒の実態把握をもとに、全校一斉道徳授業の内容を検討（各学年）

８月２６日（木）　校内研修　研究発表に向けて
研究仮説に基づいた授業づくり

９月～　２学期　授業実践、互見授業の実施

１１月　５日（金）　全校一斉道徳授業　（学年の道徳的課題に応じた教材選択）
１年　「決断」
２年　「隻腕のメジャーリーガー」
３年　「高く遠い夢」

１２月～　第３回　道徳内容項目アンケート実施（生徒）
道徳授業アンケート実施（生徒、教師）
研究発表授業検討会

１月２１日（金）　研究発表

3　研究報告

令和２年度

夏季研修に「道徳の模擬授業研修」を位置づけ、教師の指導力向上を図った。

授業者以外は生徒役になることで、「考え、議論する道徳授業」のために効果的な指導法を実践的に学んだ。講師の先生からは「いかに問い、いかに考えさせ、何を話し合わせるか」を明確にして授業をつくることの大切さをご指導いただき、全職員が「研修を受けてよかった」と回答した充実した研修となった。

模擬授業研修の成果（職員の感想から）

・他の教員の授業を受けたことで、自身の授業を振り返るきっかけになった。
・他の教員の授業の空気感を味わうことができ、イメージが広がった。
・他の教員の魅力を知ることができた。
・様々な対応が学びになった。
・導入の意義が明確になった。
・導入に工夫があったことで「学ぼう」という気が強く起こった。導入のつかみの重要性を知った。
・発問が重要であることがわかった。
・考えを深めるためには、迷いや沈黙が大切であること、生徒のコメントの受け止め方やリアクションに注意すること、教師が選択肢をすべて与えるのでなく、生徒に選択肢を出させることも効果的だということを学んだ。
・生徒が授業者の意図と違う方に議論が熱中してしまったときの対応を考えておく必要性を知った。
・授業をする上で生徒との信頼関係、明確な指導観をもつことの大切さを知った。
・研修で学んだことを次の授業ですぐに実践したい。
・道徳の授業に良いイメージを持つことができた。実践して血肉としたい。
・授業者が生徒役である教師の話し合いの様子をよく巡視しており大切な対応だと改めて実感した。

また、研修後に日ごろの実践での悩みを記入してもらった結果、多かったのは「切り返しの発問を用意できていない」「どうしたらもっと活発に議論させられるか」「授業の進め方に迷いがあるため、他の教員の授業を見たり、意見を聞いたりしたい」というものであった。さらに、「QU 検査や本校生徒の実態で道徳的価値に対する意識に課題があるものを確認し、内容を吟味していくとよい」というものも出された。令和３年度は、これらの教職員の思いを、より実践的な形で研究に生かしていくこととした。

模擬授業研修の様子（令和２年８月２４日）

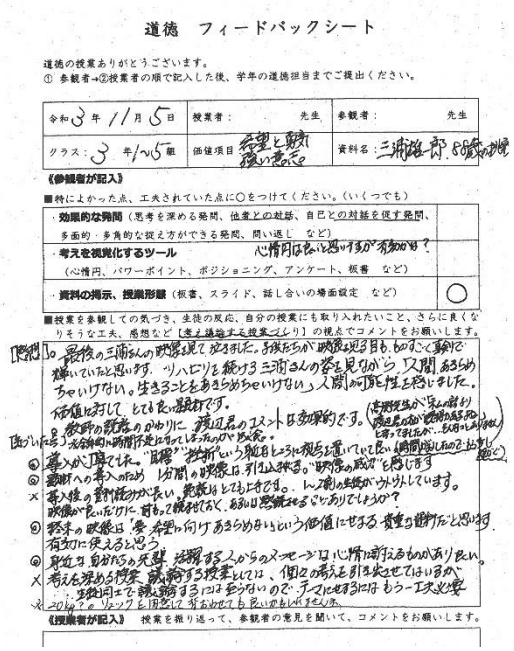
令和３年度

今年度は、昨年度の研修成果もふまえ、研究の手順に沿って研究仮説に基づいた授業実践を行った。

生徒アンケートにより道徳的価値に対する意識調査を行い、学年の実態を把握することで指導に生かすようにした。学年として最も数値が低かった内容項目を、全校一斉授業（11 月）の主題に設定し、学年職員で連携しながら授業研究を行った。授業実施後は、「道徳コーナー」に授業内容や生徒の意見を掲示し、振り返りができるようにした。

これらの取り組みにより、生徒の変容を見取るアンケートでは、どの学年も４月から数値が向上し、道徳的価値に対する実践意欲の向上が見られた。（⇒詳細は各学年の実践報告）

また、研究仮説に基づいた授業実践を強化するためにフィードバックシートを活用した互見授業を行った。客観的に授業を見てもらうことで、より効果的な指導法を模索することにつながり、全教職員で協力して研究を推進していくこともできた。


道徳　フィードバックシート

道徳の授業ありがとうございます。
① 参観者→②授業者の順で記入した後、学年の道徳担当までご提出ください。

令和3年11月5日	授業者：　　先生	参観者：　　先生
クラス：3年1～5組	価値項目 希望と勇気、強い意志	資料名：三浦雄一郎、85歳の挑戦

《参観者が記入》

■特によかった点、工夫されていた点に○をつけてください。（いくつでも）

・効果的な発問（思考を深める発問、他者との対話、自己との対話を促す発問、多面的・多角的な捉えかができる発問、問い返し　など）	
・考えを視覚化するツール（心情円、パワーポイント、ポジショニング、アンケート、板書　など）　心情円はないと思いがちが有効かも？	
・資料の掲示、授業形態（板書、スライド、話し合いの場面設定　など）	○

■授業を参観しての気づき、生徒の反応、自分の授業にも取り入れたいこと、さらに良くなりそうな工夫、感想など【考え議論する授業づくり】の視点でコメントをお願いします。

《授業者が記入》　授業を振り返って、参観者の意見を聞いて、コメントをお願いします。

○検証結果の分析

教師と生徒のアンケート調査から、仮説を実証するための手立てが有効であったかを検証した。

※グラフは解答人数と割合を示したもの
　Ｔ＝教師、Ｓ＝生徒

5	4	3	2	1
とても そう思う	そう思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない

▶仮説１「効果的な発問を工夫すれば、議論に発展させることができるだろう」に対する手立ては有効であった

		5	4	3	2	1
T	発問の工夫によって、生徒が考えを深めたり、話し合いを深めたりする様子が見られた。	3	15	6	0	
S	先生の問いかけによって考えを深めたり、友達と話し合うきっかけが生まれたりした。	216	213	70	6	

		5	4	3	2	1
T	授業を通して生徒が道徳的価値を多面的・多角的に考えたり、考えを深めたりする様子が見られた。（発言・ワークシート等）	3	14	6	1	
S	友達の意見を聞いて違った角度からも考えたり、自分の考えをより深めたりすることができた。	261	185	58	2	

全仮説の中で、教師と生徒共に最も肯定的評価の割合を大きく占めたのが仮説１であった。75％の教師が発問の工夫をしたことによる生徒のプラスの変容を実感しており、否定的評価をした教師は皆無であった。生徒は全体の 82％以上が発問の効果を実感している。自分だけの考えでなく、教師の発問やそれをきっかけにした友達との話し合いの中で多面的・多角的に考えたり、自らの考えを深めたりすることができたといえる。

▶仮説２「考えを視覚化するツールを工夫すれば、多様な意見を引き出し、考えを広げ深めることができるだろう」に対する手立ては、十分な効力を発揮させられなかった

T	心情円、ホワイトボード、アンケート結果表示、ICTツール(発表ノートやSli.do)などを使った授業では、使わない授業よりも生徒が活発に発言していた。（話し合いを含む）	3	10	6	1	2
S	心情円、ホワイトボード、アンケート結果表示、ICTツール(発表ノートやSli.do)などを使った授業では、使わない授業よりも自分の考えが伝えやすかった。	196	158	134	27	
S	心情円、ホワイトボード、アンケート結果表示、ICTツール(発表ノートやSli.do)などを使った授業では、使わない授業よりも友達の考えがよく伝わった。	183	171	136	29	

仮説２に関する質問には「どちらともいえない」を選択した生徒の人数が総じて多い結果となった。生徒にとって他者と議論し考えを深めるために有効な手段となるよう、活用方法を研究していく必要がある。生徒の実態や指導内容に対して、より適切なツールの選択や ICT 機器を効果的に活用するための研修を進めたい。

▶仮説３「資料の提示や授業形態を工夫すれば、見通しをもって粘り強く取り組むことができるだろう」に対する手立ては有効であった

T	パワーポイント、動画資料、場面絵、役割演技などを用いて、生徒が見通しをもてるような授業形態を工夫した。	3	12	4	2	3
S	パワーポイント、動画資料、場面絵などを使った授業では、使わない授業よりも内容がよく理解できた。	235	176	94	5	

視覚情報を効果的に提示することや役割演技を適宜用いることは、資料（教材）の内容理解を助けるものとなることがわかった。そのことにより生徒は一層自分ごととして考えることができるといえる。一方で全体の約２割の教師は十分な手立てを講じられていないと認識している。今後も学校全体として工夫改善を図りたい。

▶研究主題「根気強く、よりよく生きるための道徳性の育成～考え、議論する道徳授業の実践～」に迫ることができた

T	考え議論する道徳を実践できた。	2	7	10	5	0
S	道徳の授業では自分の考えを伝え、友達と議論することができた。	228	218	59	3	

生徒の 85%以上が肯定的評価をしたのに対し、教師は 37.5%に留まった。「どちらともいえない」を選択した教師の割合が 41.7%であったことからも、研究を進める過程で「考え議論する道徳授業の実践」の難しさを一層実感した結果となったことが考えられる。しかしながら、研究の成果として「指導力の向上」「他教師からの学びや互いの実践交流」を挙げる教師は多く、学校全体として授業力向上につながる実践を重ねることはできたと捉えている。今後は、教師が生徒の内面的な成長を「見える化」させるなど、成長を適切に評価するため手立てを十分に講じていくことで数値の向上も期待できると考える。

T	生徒が自分自身の生き方の課題と向き合えるような発問や問い返しをした。	3	12	6	2
S	道徳の授業で自分自身の生き方の課題と向き合うことができた。	214	205	78	25
S	今自分は、よりよく生きようと考えたり行動したりしている。	224	188	87	6

一方、上記の項目で約 80%の生徒が肯定的評価をしていることから、教師の意図をもった発問や問い返しは、生徒が自らの生き方を考える上で有効に機能したといえる。今後、生徒が他者と語り合う中で道徳的価値の理解を深め、内省しつつ人としての生き方を考えるような授業を工夫するとともに、生徒が自らの成長を実感できるような手立てを工夫していく。自己評価シートや道徳コーナーに改良を加え、年間を通して成長を記録していけるものとしたい。今回の研究成果をもとに、学校全体として生徒の成長につながる道徳教育を実践していく。

研究を通して見えてきたその他の成果と課題

◆学校の教育活動全体を通した「道徳教育の充実」が課題である

T	生活の中で折に触れて道徳の授業で学習した内容を話題にすることがあった。	5	8	6	5
S	「道徳コーナー」を見て、同じ学年の仲間の多様な考えに触れることができた。	193	183	106	30
	「道徳コーナー」を見て、自分自身の課題に向き合おうという気持ちになった。	164	185	131	23

生徒の道徳性の育成には、道徳科の授業のほかに道徳教育全体の充実も欠かせない。

上記のアンケート結果によれば日常の中で道徳学習内容を話題にしている教師は約半数であることから、教師がより生徒の道徳性を育んでいこうと意識を高めることで、授業での学びが一層深まることが期待できる。あわせて「道徳コーナー」に改良を加え、生徒が進んで自らの生き方を考えたくなるようなものになるよう、充実させていきたい。

さらに、授業実践を重ねる中で「伝えたい思いがあっても上手く言葉にしたり表現したりできない生徒」がいることも見えてきた。表現するための支援を適切に行い、道徳科以外の教科でも表現力を育成していくことが必要である。

今回の研究で生徒の実態に即した道徳教育の重要性を再認識できた。次年度以降も学校課題を明らかにし、重点項目に対する指導時期や方策を明確にした年間指導計画の作成、及びローテーション授業の組み方を工夫改善し、教職員が一丸となって道徳教育に取り組んでいく。